

平成 29 年度第 1 回 大阪市イノベーション促進評議会 会議要旨

1 日時

平成 29 年 11 月 15 日（水） 16:30～18:00

2 場所

大阪イノベーションハブ

3 出席者

正城委員長、竹村委員、東委員、田中委員
事務局（吉川理事、馬越部長、柳内課長、小林課長代理、梅田課長代理他）

4 議題

- (1) 大阪市イノベーション促進評議会の委員長の選任について
- (2) 平成 29 年 4 月～9 月の大阪イノベーションハブの活動状況と自己評価について
- (3) 今後の方向性について

5 会議概要

(1) 大阪市イノベーション促進評議会の委員長の選任について

全会一致により正城委員を委員長に選任

(2) 平成 29 年 4 月～9 月の大阪イノベーションハブの活動状況と自己評価について

〔主な発言内容〕

- ・この 5 年間で、スタートアップ支援といえば大阪イノベーションハブ（OIH）というイメージが定着してきている。数字を見ても、非常にいい形で成長している。
- ・イノベーションのエコシステムを構成するパーツもそろってきており、今後はそれらをつないでいくための仕掛けをどうするかを考えて取り組んでいく必要がある。
- ・OIH が「グローバルなハブ」というテーマを掲げるなら、わくわくするコンセプトを表に出すべしして取り組んでいくべき。
- ・大阪の産業構造を見たときに、たとえばメディカル、ヘルスケア、バイオといったテーマを決めて、プロジェクトがイメージしやすいようにする必要がある。
- ・若い世代を巻き込んでいくことも重要。若いうちに生産から販売まで丸ごと 1 回小さくてもいいから成功体験をつけさせるようなことも重要。

(3) 今後の方向性について

〔主な発言内容〕

- ・OIH のブランディング、OIH を集める場から集まる場にする、そのために OIH を魅力的な場所、魅力的な人が集まる場所にするのが重要。

- 今まで集まってきた人が単発ではなく、相互につながっていくような仕組みにしていく必要がある。
- 従来型のピッチイベントでは、まったく異なる生態系にいる人たちが出会って一緒に何かやろうということにはなかなかならないので、そのような機会を創出することが必要。
- 大企業とスタートアップ企業をマッチングさせることによって、スタートアップ企業の成長が期待できるが、大阪はそれが他都市に比べて実行できる場所であることが魅力。
- 多様性やそれを受け入れる寛容性が必要で、混沌の中から何かが生まれる。O I H は多様な人が集まる場所に。
- スタートアップの一番重要な資金調達方法は売上があがること。社会課題を解決するスタートアップのサービスを行政が購入することが、スタートアップの資金調達に貢献することになる。